座談会 2

新課程のカリキュラム策定に向けて取り組むべきこと

1年次のカリキュラム策定が全カリキュラムの鍵を握る

学習習慣の未定着や、学力幅の拡大、受け身の生徒の増加などの課題は、進学校でも深刻だ。新課程でのカリキュラム策定で、その課題解決に道筋をつけられるのか、3校の先生方に聞いた。

学習の「量」の確保が各校共通の課題

編集部　各校の教育方針と現行課程における課題を教えてください。

川村　花巻北高校の基本方針は文武両道です。勉強も部活動も、点数や勝ち負けにこだわるだけでなく、真剣に取り組み、心を磨くことが大切だと考えています。そうすれば、結果的に成績が伸び、進路志望も実現できるというのが、本校の共通理解になっています。少ないすき間時間で効率的に家庭学習が出来た生徒は、部活引退後、飛躍的に学力が伸びます。限られた時間をどのように使うのかということも、勉強と部活動の両立を通して学んでほしいと思っています。そこで課題となるのは、家庭学習時間の確保です。2時間が理想ですが、実際には1・5時間程度です。また、学力幅の広がりも深刻で、本校では全国偏差値70を超える生徒と偏差値40前後の生徒が混在しています。全体指導と個別指導をどう組み合わせるのかも考えていかなければなりません。

岩手県立花巻北高校
川村俊彦 Kawamura Toshihiko
教務主任。同校に赴任して9年目。担当教科は化学。

岩手県立花巻北高校
伊東理俊 Ito Masatoshi
進路指導主事。同校に赴任して4年目。担当教科は数学。

後藤　藤枝東高校では、学校でのすべての活動が、生徒の「学力・体力・心力」の三つを育てるためのものであると考えています。大学入試においても、単に合格すればよいという指導はしません。基本的に推薦・AO入試は受けさせず一般入試で勝負

参加校

岩手県立花巻北高校
全日制／普通科／共学／1学年約280人／10年度の進路実績（現浪計）：国公立大は、岩手大52人、東北大15人、秋田大12人など計163人が合格。私立大は岩手医科大、東北学院大、東北薬科大、早稲田大などに延べ172人が合格。

新潟県立新発田（しばた）高校
全日制／普通科・理数科／共学／1学年約320人／10年度の進路実績（現役のみ）：国公立大は、北海道大3人、東北大11人、新潟大64人など計183人が合格。私立大には東北学院大、明治大、早稲田大、立命館大などに延べ334人が合格。

静岡県立藤枝東高校
全日制・定時制／普通科／共学／1学年約280人／10年度の進路実績（現浪計）：国公立大は、北海道大5人、東北大8人、東京大1人、静岡大48人、大阪大6人など計212人が合格。私立大は慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ594人が合格。

させているのも、壁を乗り越える経験が社会に出た後で生きると考えているからです。そのため、1年生では国数英の基礎学力の定着を重視し、一般入試を突破できる力を付けることを意識しています。その分、理社がどうしても後回しになってしまい、3年生で放課後補習を行っても教科書を終えるのに11月までかかることが課題です。また、静岡県では9割の中学生が高校入試対策を塾に依存しているため、多くの生徒に自学自習の習慣が付いていません。早い時期に、暗記だけでなく自分で考える学習スタイルにどう切り替えていくのかということも、重要な観点になっています。

新潟県立新発田高校
伊藤 喬 Ito Takashi
進路指導部長。同校に赴任して6年目。担当教科は生物。

伊藤喬 新発田高校も、人格の形成という観点から文武両道を校是としており、勉強と部活動の両立は課題の一つです。入学直後は緊張感もあってそれなりに家庭学習をしていますが、学期を追うごとにその時間は少なくなっていきます。1年生のうちに身に付けるべき学習習慣が定着していないため、生徒の学力を最後まで伸ばし切れていないことを感じます。部活動の顧問が生徒の学習時間を把握して部活動と自宅学習のバランスに配慮するケースもありますが、学校全体の取り組みにまではなっていません。本校は新潟大への進学希望者が圧倒的に多いため、カリキュラムは国公立大合格を見据えて編成しています。ただし、必ずしも新潟大に特化しているわけではなく、更に上の大学も目指せるカリキュラムにしています。

新潟県立新発田高校
伊藤秀男 Ito Hideo
教務主任。同校に赴任して7年目。担当教科は英語。

生徒の読解、計算のスピードが鈍化

編集部 個々の教科における学力面の課題はありますか。

伊藤秀 担当教科の英語では、生徒が中学校時代にコミュニカティブな学習を積んでいるため、話そうとする意欲やリスニングのスキルは以前よりも優れていると感じています。その半面、語彙力や文法の力は不十分です。何度指導しても同じ間違いをする生徒も目に付きます。中学時代に身に付けておくべき基礎・基本が抜けているようです。

伊東 数学では、単純な計算問題を解くのが遅く、計算ミスが多くなったと思います。以前の教育課程の生徒ならもう終わっているだろうというタイミングで、計算が半分も終わっていない生徒もいます。

静岡県立藤枝東高校
後藤佐登美 Goto Satomi
進路指導主事。同校に赴任して9年目。担当教科は国語。

後藤 国語では現行課程になってから、文章を読むスピードが遅くなりました。センター試験の問題を制限時間の80分で解き切れない生徒も増えています。しかし、ゆとり教育になって生徒の学力が落ちたのかもしれないといっても、それは生徒の責任ではありません。「ゆとり教育世代」をつくってきたのは我々大人であるということを認識し、教育改善に努めていかなければならないと思います。

カリキュラム編成は「1年生」が鍵

編集部　各校とも、学習習慣の未定着や学力幅の拡大が課題のようですが、新課程ではどのようにカリキュラムを工夫していきたいとお考えですか。

川村　新課程で特に課題であるのは理科です。生徒の科目選択のミスマッチを減らすために、私は1年生が重要になると思います。岩手県では物理と化学が弱いということもあり、本校では、理科の教育課程は理系を中心として考え、1年次に物理と化学を学ばせたいと考えています。その上で、2年次に集中的に生物基礎を学ばせ、その後、基礎を付さない科目を選択するという方法を検討しています。今までは、2年生進級時に、物理の授業を受けたこともないのに、「数学が苦手だから物理はやめておこう」という科目選択をする生徒もいました。新課程では理科の基礎3科目を履修した上で4単位科目を選ぶことになるので、ミスマッチは少なくなると期待しています。

伊藤喬　本校では具体的な検討はこれからですが、理科は1年生で物理基礎と生物基礎の両方を履修させようと考えています。それにより、2年生進級時の文理選択に向けて、自分が理系向きか、文系向きかを判断できるのではないかと思います。

導入期の指導がますます重要に

編集部　指導上の工夫としてはどのようなことが考えられますか。

伊藤喬　私は導入期指導が重要なのではないかと考えています。中学校までは学習方法が未熟な生徒が多いので、入学直後に高校での学習の仕方をしっかり教え、出来るだけ早く高校生にさせるのです。その上で、生徒が授業内容をきちんと理解しているのかを単元ごとにチェックしてから先に進むというように丁寧な指導を心掛ける必要があります。

後藤　本校では文理選択が1年生後半にあるので、入学時から学習への意識を高めていくことが重要だと考えています。導入期指導で高校生としての学習スタイルを身に付けさせ、その緊張感を維持して中だるみの起きやすい1年生後半から2年生を乗り切れるように指導を工夫することが大切です。また、入学当初から進学に対する意欲を高めていくことも重要です。本校では、1年生で学部研究をさせたり、大学のオープンキャンパスに参加させたり、進路について考える機会を多く設けています。模試の結果も重視し、校内では順位が高くても全国的に見ればまだまだであることを生徒に意識させ、入試に向けた意識の醸成を図っています。

ただし、限られた時間で学力を高めるには、授業を通していかに各教科の面白さや醍醐味を伝えるかが最も重要だと思います。授業の「進度」と「深度」を推し量り、学年・教科間の共通理解の下にカリキュラムをつくることが重要なポイントになると思います。

川村　先を見通した指導も、重要になるのではないでしょうか。本校では国数英の3教科で、2週間先までの授業内容や宿題、小テストの範囲などを示した短期的な教科シラバスを作成中です。生徒の学習時間も記録させることで、例えば今週は部活動の大会があるから早めに宿題に取り組もうというように、自分でスケジュール管理をしながら自学自習に取り組めるようになってほしいと期待しています。

伊東　私は、新課程を本校の授業を

見直すチャンスと捉えています。授業時間が足りなければ、限られた時間の中でどうすれば良いのか、もっと工夫できる点はないのか。それぞれの先生が自分の授業を見つめ直し、改善していく努力が必要です。また、それぞれの授業から出てきたノウハウを校内で共有・蓄積すれば、自ずと学校全体の教育力も上がっていくのではないでしょうか。

限られた時間の中で授業の質を高める

編集部　限られた時間の中で、授業の質を高めていくためにはどのような工夫が必要でしょうか。

伊藤喬　学習指導要領を精査して、授業内容を見直すことから始めてはどうでしょうか。新課程では理科の内容が大きく変わります。変わる部分と変わらない部分を吟味し、基礎科目と基礎を付さない科目のつながりを見て、ここは2年生以降に教えた方が理解が深まるから、1年生では省略しようというように、内容を精選することでより効率的な授業が出来ると思います。同時に、いろいろな話題や教材を教室に持ち込み、生徒の興味を喚起することも忘れてはなりません。教科の魅力を伝えることによって、教科の学習意欲が喚起され、深い考察も可能になると思います。

伊藤秀　英語の場合、異なる科目で内容が重なる部分があります。3年間を見通してこれらを有機的に結び付けていくことで、時間を短縮しながら同時に英語力も高めていけると思います。また、中学校との接続を踏まえると、高校入学後、いきなり文法の学習から始めるのではなく、アウトプット中心の授業をし、徐々に文法の解説を増やすという展開も考えられるでしょう。

川村　私は黒板にチョークで板書するという固定観念を改め、本年度からプレゼンテーションソフトを使った授業を試みています。視覚的に分かりやすく、ポイントを押さえることによって、指導の効率化を図っています。1回の授業で2分でも3分でも時間の短縮を試みれば、1年間で1単位くらいは捻出でき、他の指導に活用できると考えています。

学力に合った方法で知的好奇心を刺激する

編集部　学力層の拡大への対応も難しくなるのではないでしょうか。

伊東　私は「習熟度」が鍵になると思います。習熟度別に分けることも一つの方法ですが、一つの教室に偏差値40から70までの生徒が混在している中で一人の教師が教えなければならない場合、それぞれの学力層に応じた話題を提供する方法が有効だと思います。実際、授業の最後に東京大レベルの問題を投げかけ、成績上位層の知的好奇心をくすぐるということもしています。

後藤　生徒同士が相談したり、学び合ったりしながら答えを導き出すような発問も有効だと思います。本校には、優秀な生徒を見て自分も頑張ろうと発奮する生徒が大勢います。多少時間をかけてでも、成績上位層に積極的に発表させることで、中・下位層の生徒の意欲を高められるのではないかと思っています。また、出来る生徒の考え方や解き方を参考にして、自身の国語力を高める生徒も増えてくると思います。

川村　教える内容が増えるからといって、単にシステムを変えたり、授業時間を増やしたりするだけでは、我々教師の成長はありません。与えられた条件の中で不断の改善を試みることで、指導の方向性や新しい学校の形が見えてくるのではないでしょうか。

編集部　本日はありがとうございました。

1年次のカリキュラム策定の視点

- 理科の履修を工夫し、文理選択を判断しやすくする
- 国数英の基礎学力を重視する
- 英語はアウトプット中心の授業から始める
- 学び合いの授業を重視し、学力層拡大に対応